

6月18日 文法

古典を習い始めた頃、厳格を絵に描いたような先生が、きれいな字で黒板に「未然形+ば＝順接仮定条件」「已然形+ば＝順接確定条件」と書いた。「順接仮定条件は～ならばと訳し、順接確定条件は～ので、～からと訳す。覚えなさい」と言った。「先生なぜそういう意味になるのですか」と質問した生徒に、「君は予習をしたのか。文法書に書いてあるだろう」「……」私はいっぺんに古典が嫌いになった。その先生はおそらく、高校に入りたての私たちに予習の習慣をつけなくてはならない、自ら学ぶ意識を定着させたいと考えておられたのだろう。しかし、教科書もちんぷんかんぷん、文法書を見ても理解できない状態の私たちに、いきなり予習の重要性を説かれても……。ハードルが高すぎた。

文法はあくまで法則であって、道路交通法でいうところの標識みたいなもの。確かに覚えれば終わりなのだけれど、人間が作ったからには約束事がある。標識だって信号に合わせて赤黄青に分かれている。

未然形はまだなっていない形を表すので仮定、已然形はすでになった形なので確定。ただそれだけの約束事を理解すれば済む話だった。

文法アレルギーだった私が教師になって生徒に文法を教える。本当に苦労した。学びながら教え、教えながら学ぶ毎日だった。生徒が理解できない文法書なんて使いたくない。だからすべて手書きのプリントで授業した。「先生、古典って面白いな」「そうやろ」。涼しい顔で応えたが、心はガッツポーズを構えていた。

